

【フロンティアスクール用中間報告書様式】

(都道府県 東京都)

．学校の概要（平成15年12月現在 実施計画書から転載可）

港区立麻布小学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	6	
児童数	34	33	35	29	27	36	0	194	12	

．実践研究の概要

1．主題（テーマ）

確かな学力を身に付ける児童の育成
 —— 一人一人を生かす指導を求めて ——

2．内容と方法

(1)実施学年・教科（選択した理由を付すこと）

平成14年度

3～6年総合的な学習の時間（課題を見つける力・課題を追究する力・まとめたことを伝える力を育てるため）
 5・6年 国語（読む力・書く力に加えて調べる力・まとめる力・伝える力を育てるため）
 全学年 算数・国語（基礎的基本的な内容の定着を図るため）

平成15・16年度

全学年 国語（基礎的基本的な内容の定着を図るため・特に、表現力を育てるため）
 算数（基礎的基本的な内容の定着を図るため・特に意欲・表現・処理能力を育てるため）
 道徳・特別活動（豊かな心を育成するため）

(2)年次計画

平成
14
年度

テーマ

- ・「見つけよう 調べよう 伝えよう」
- 総合的な学習の時間・生活科を通して -
- ・総合的な学習の時間と教科の関連 - 基礎・基本の力を育てる -

仮説

総合的な学習の時間に、見つける力、課題を追究する力、まとめたことを追究する力を育てることが重要である。そのためには、評価規準を設定し、毎時間の授業の中で児童の姿を見取り、評価規準に基づき評価し、それを指導に生かす。

育てたい力を教師が明確にし、指導と評価の一体化を図ることが総合的な学習の時間における基礎基本の力を育てることになる。

基礎・基本の力を育てるためには、国語・算数などの教科の指導を充実させることが重要である。そのためには、個に応じた指導のための、指導方法・指導体制の工夫改善が必要である。

研究内容・〔方法〕

総合的な学習の時間の学年レベル・単元レベルの評価規準の設定を行い、評価を指導に生かした指導の改善を行う。

〔総合的な学習の時間をとおして身に付ける力の観点を、「見つける力」「調べる力」「伝える力」とし、学年ごとに評価規準を設定する。それを基に、各単元ごとに具体的な児童の姿からより細かい評価規準の設定を行う。授業研究を通して、指導と評価の一体化が図れているかどうか、検証する。〕

国語・算数で基礎・基本の力を育てるために、個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善を行う。

〔国語においては、1年・5年・6年で少人数指導を実施する。1年では、担任と加配教諭で同時に少人数指導を実施。5・6年においては、担任が算数を、加配教諭が国語を担当し、同時に少人数指導を実施。〕

国語・算数の基礎・基本を確実に身につけるために、基礎・基本の時間の設定をする。

〔「ぐんぐんタイム」を週6回、時間割に位置づけ、教材の開発を行う。〕

算数において、個に応じた指導を行う。

〔時間講師により、習熟度別指導を行う。〕

都教委の実施した「基礎的・基本的な内容の定着」に関する学力調査を、第4学年で独自に実施し、国語・算数の定着状況を分析する。

確かな学力を身に付ける児童の育成

—— 一人一人を生かす指導を求めて ——

仮説

一人一人の学ぶ意欲を育てるためには、興味・関心を高め、個に応じた教材の開発をし、できる喜びを多く味わわせることである。

一人一人が、授業において確かな学力を身につけ、自信を持たせるためには、指導方法を工夫したり、指導体制を工夫することが重要である。

確かな学力を支える基盤は、道徳教育や特別活動の充実による「豊かな心」であるので、心を育てる指導を工夫していく。

確かな学力を身に付けるためには、基本的な生活習慣を確立し、家庭との連携を強化することが大事である。

研究内容・〔方法〕

個に応じた学習指導上の工夫をする。

- ・習熟度別学習、ＴＴによる指導、課題別指導、コース別指導 等
 - ・評価の工夫、補充学習の工夫、宿題の工夫 等々
- 豊かな心の育成を重視する。

・道徳教育の充実

・特別活動の充実

・教科や総合的な学習の時間の学習における工夫、

・学級、教科経営上等の工夫

基本的な生活習慣を確立するよう指導を工夫する。

・生活指導との連携・協力

・家庭との連携の強化

・保健学習・保健指導の充実

* 昨年度からの変更理由

- ・本校においての「確かな学力」のとらえ方と確かな学力を身に付けるための方法において、豊かな心の育成が不可欠であるとの見解のため内容を変更した。

テーマ

確かな学力を身に付ける児童の育成

—— 一人一人を生かす指導を求めて ——

仮説

一人一人の学ぶ意欲を育てるためには、興味・関心を高め、個に応じた教材の開発をし、自らの力で学ぶ体験を繰り返すことである

一人一人が、授業において確かな学力を身につけ、自信を持たせるためには、指導方法を工夫したり、指導体制を工夫することが重要である。

確かな学力を支える基盤は、道徳教育や特別活動の充実による「豊かな心」であるので、心を育てる指導を工夫していく。

確かな学力を身に付けるためには、基本的な生活習慣を確立し、家庭との連携を強化することが大事である。

研究内容・〔方法〕

個に応じた学習指導上の工夫をする。

- ・習熟度別学習、TTによる指導、課題別指導、コース別指導 等
- ・評価の工夫、補充学習の工夫、宿題の工夫 等々

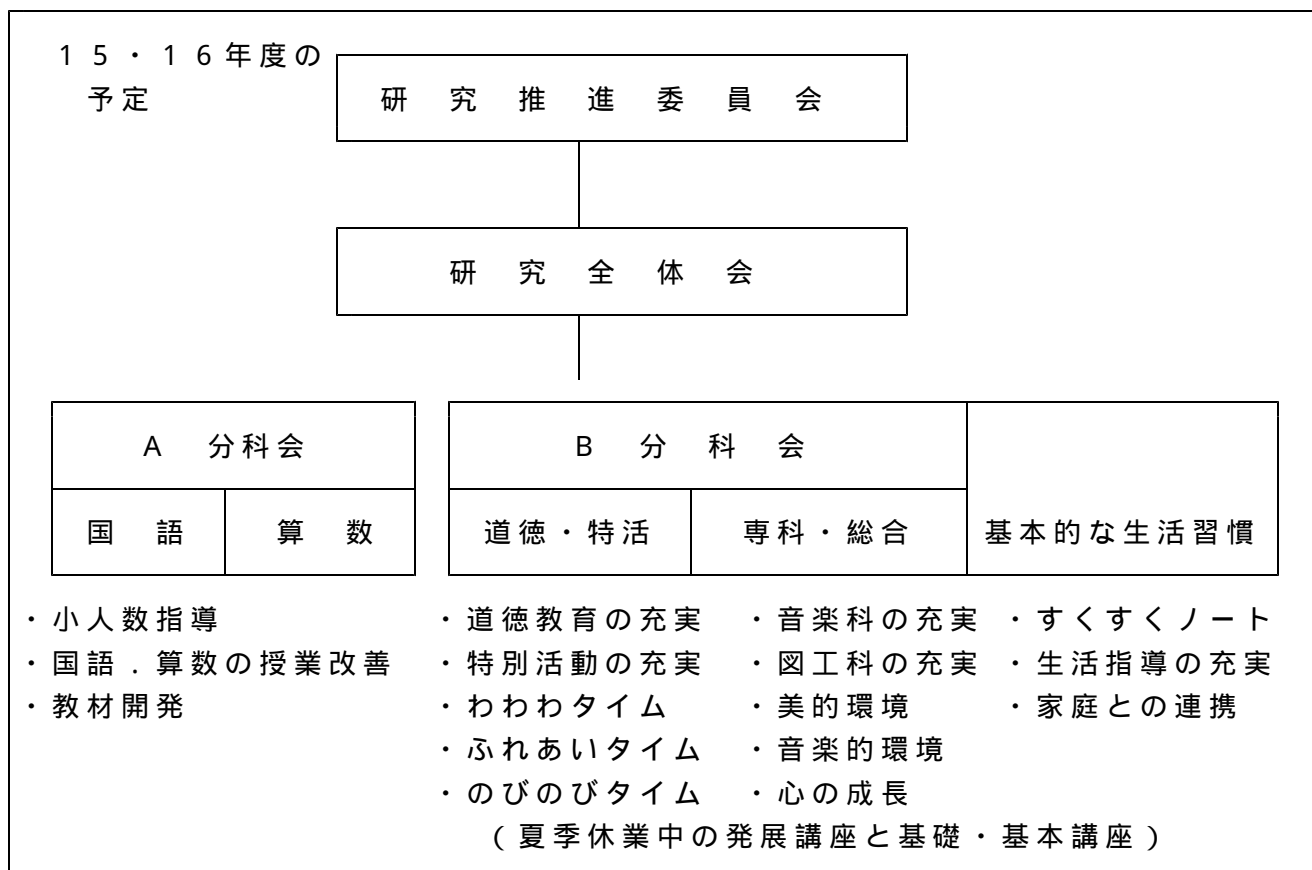
豊かな心の育成を重視する。

- ・道徳教育の充実
- ・特別活動の充実
- ・教科や総合的な学習の時間の学習における工夫，
- ・学級、教科経営上等の工夫

基本的な生活習慣を確立するよう指導を工夫する。

- ・生活指導との連携・協力
- ・家庭との連携の強化
- ・保健学習・保健指導の充実

(3) 研究体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・ 国語・算数への関心や意欲が高まり、楽しんで学習する児童が増えた。
- ・ 国語・算数への学び方が分かり、自主的に学習する態度が少し身に付いてきた。
- ・ 担任と加配教員との協力体制で、課題別学習や進度別学習を行うことができた。
- ・ 学習内容に沿った様々な学習集団の編成を試行し、検証することができた。
- ・ 時間割を工夫し、基礎・基本の時間「ぐんぐんタイム」を設定することができ、全校的な取り組みとして保護者や地域に理解を得るきっかけとなった。
- ・ 2年生「わわわタイム」において、豊かな心こそ、確かな学力を支えるものであるとの検証をすることができた。
- ・ 道徳や特別活動における「人とのかかわり」について研修会を行い、教員の意識の向上を図れた。
- ・ 夏季休業中の補習（発展講座と基礎・基本講座）を開設することができ、興味関心を高めたり、自分のめあてに向かって努力する体験をさせることができた。

2. 今後の課題

- ・ 学習指導面において、さらに個に応じた指導を工夫していく必要がある。
- ・ 少人数指導においての有効な単元、領域を位置付ける必要がある。
- ・ 評価方法の改善の工夫が必要である。
- ・ 少人数指導において、効率的な打ち合わせを進めるための一層の工夫を図る。
- ・ 豊かな心の育成に取り組んだが、成果が即効的でなく、数値で表しにくい領域なので、より具体的な手だてや工夫が必要である。
- ・

学力等把握のための学校としての取組

定期的な学力調査

- ・ 4年生においては、都の調査用紙にて毎年行う。
- ・ 5年生においては、標準学力検査CRTを区で一斉調査を行う。

学力調査に基づき、結果の分析をし、指導方法の見直し、改善を図る。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・研究会・説明会等の開催実績及び開催予定

平成15年度 2月27日(金)

学校公開・フロンティア説明会

港区立麻布小学校にて

地域関係者・保護者・区立小中学校の関係教員対象
(区教委と相談中)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無